

ロシアによるウクライナ侵攻から半年

真の「平和」はどうあるべきか？

今年 2 月 24 日、ロシアがウクライナに軍事侵攻を開始して今日でちょうど半年となります。この半年の間にロシア軍、ウクライナ軍双方に多数の死傷者が出ているだけでなく、多くの市民も戦禍の犠牲になり、国を離れ避難を余儀なくされています。このような現状はいまだ回復の兆しを見せるどころか、ウクライナ政府は 23 日、オンライン国際会議「クリミア・プラットフォーム」を開催し、参加した数十カ国の首脳にゼレンスキー大統領は「ウクライナの勝利が国際社会にとっても重要」と改めて強調し、さらなる軍事支援を呼びかけています。

また日本国内においても、「防衛費をさらに引き上げるべき」「台湾有事、中国、北朝鮮の脅威に日本が晒されている」「日本がウクライナのようなことになったらどうするのだ？」「日米同盟強化、核共有や核武装するしかない」など「軍事力を強化しなければいけない」という主張が徐々に高まりを見せています。

多くのマスメディアは「ロシアとウクライナの国家間における侵略戦争」として連日報道をしています。一方ではウクライナ南東部にあるザポリージャ原子力発電所が繰り返し攻撃の対象にされ、全世界が放射性物質に汚染されてしまうのではないかとという別の「脅威」もあります。



写真：「nippon.com」より引用

5 月 29 日に開催された「みんなの平和・未来フォーラム」では、沖縄の本土復帰 50 年の節目の年に『未来のエネルギー、未来の平和、未来の働き方について考え・つなげ』というテーマのもと、各分野の有識者の皆さんから問題提起をいただきました。地球環境が危機を迎えている中で、グリーンな環境の下で全地球規模での「新たな国際秩序」をどのように創り出していくべきか、そのために私たち一人ひとりがこの世界の現状をどのように捉えて行動していくのかを考えなければなりません。

全世界を取り巻いている「戦争」「貧困・格差」「環境破壊」「原発・核兵器」などのあらゆる「脅威」は、武力で解決できません。ロシアによるウクライナへの軍事侵攻を契機に、真の「平和」はどうあるべきかを「地球規模で考える」ことが私たちの大きな役割でもあります。

私たちは、「あらゆる戦争・武力行使は国家権力が全世界の生命を危機に晒し環境破壊を引き起こす行為である」ことを認識しなければなりません。その上で、国連が提唱している「持続可能な開発目標」「SDGs」の目標のもと、「誰一人取り残さない社会」の実現に向けて行動することが重要です。

JTSU は「みんなの平和・未来フォーラム」で提起された 3 つのテーマ（「エネルギー」「平和」「働き方」）と SDGs の精神を全地球規模で考え・つなげ、連帯するすべての仲間たちと一緒に平和な未来を創造するための新たなムーブメントをこれからも発信し続けていきます！



リレートーク出演者



＜主催＞「みんなの平和・未来フォーラム」実行委員会
TEL: 070-8451-7266 FAX: 03-6803-3681 E-mail: everyone.peace.future@gmail.com